



2019～20年度テーマ

# 中村ロータリークラブ

## 例会記録 (2019～2020)

会長/加持 誠 司  
幹事/川村 公彦  
会報委員長/今西 務

創立/昭和38年10月2日  
例会日/水曜日 12:30～13:30  
例会場/新ロイヤルホテル四万十  
事務所/四万十市中村小姓町46番地 中村商工会館2F  
TEL 0880-35-4551 FAX 0880-35-4553  
●ホームページ <http://www.nakamura-rc.com/>

週報 No.2619

第2750回 令和2年1月29日(晴れ)

本日のプログラム: 会員スピーチ 大杉 幹夫会員

2月5日(水) : 会員スピーチ

2月12日(水) : 会員スピーチ

### 【会長挨拶】 加持誠司会長

- ・こんにちは。一昨日の暴風雨にはびっくりしました。年明けの暖かさなど異常な気象状況です。
- ・先日、ホテルでの出来事ですが、受付の女性が「フロントに御用の際は#00まで」と教えてくれました。言われた通り#00とダイヤルしましたが通じません。結局、#をのけたら通じたのですが、現在、ツイッターなどで使用されている「#」はハッシュタグと呼ばれ、冒頭に「#〇〇」と入れて投稿すると、その記号つきの発言が検索画面などで一覧できるようになり、同じイベントの参加者や、同じ経験、同じ興味を持つ人のさまざまな意見が閲覧しやすくなるのだそうです。ややこしい世の中です。

### 【幹事報告】 川村公彦幹事

- ・ガバナー事務所より  
第44回ロータリー少年少女キャンプの申し込みについて  
3/29(日)～4/2(木)  
神戸YMCA与島キャンプ場  
対象: 小学1年生～高校3年生  
申し込みは3/13まで
- ・幡多薬物乱用防止推進協議会より  
高知県薬物乱用防止推進員の次期任期について
- ・幡多信用金庫より  
第28回四万十川全国俳句大会の募集要項

### 【委員会報告・会員発言】

#### ■梅原財団委員長

ロータリー財団にご協力ください。現在、12名のメンバーにご寄付を頂いております。よろしくお願ひします。



## 【本日のプログラム】 会員スピーチ 大杉 幹夫会員



今日は、私のスピーチですが、郷土の歴史・人物「樋口真吉」の動画を見て頂きたいと思えます。この動画は、昨年公民館で、高知の歴史家、松岡氏の講演内容です。

## 幡多の幕末志士「樋口真吉」

幡多の志士は樋口真吉がリーダーです。郷土資料館の写真ですが、背筋がぴしっと伸びていて骨格ががっしりとしています。桑原戒平が出版した『樋口真吉伝』『樋口先生』は、かなり正確に記されています。

樋口真吉の父、樋口信四郎は山内家に寛政九年足軽で採用されています。また武術の達人だったようです。そこで真吉を、九州の鎮西の大石先生に使わして、剣術を学ばせた。

樋口真吉は、剣術の武者修行に随分出ております。筑後の柳川藩の大石神陰流ですが、特徴は、刀が長く、構えは上段でなくて下段。その大石神陰流の免許を取得し門人を多く養成しています。

真吉は剣だけでなく西洋流の砲術も学んでいます。長崎で学んだ資料が資料館にあります。

嘉永5年、九州の長崎でジョン万次郎にも会っています。当然、あまり細かくは知ることはできませんが、その時国際事情を学んだようです。その後、江戸に上り、佐久間象山の門に入っております。この時期、長州に行き、明倫館の山形周南より儒学を学んでいます。

樋口真吉はその時点で「興国の恩に報い、神の国、日本。その恩に報いようではないか」という思想に至っております。

真吉は安政二年に幡多の青年たちを集め文武館を造っています。そこで安岡亮太郎も先生となって教えています。この文武館は現在の中村大神宮です。その門人名簿での剣術、大石神陰

流と銃術部の門人は561名です。砲術の門人は217名です。剣を学び、砲術を学んだようです。宿毛の6千石の若殿様や後藤またごえもん。土佐の尊王攘夷派の上士でした。三浦一族の名もあり、中村、宿毛、沖の島など幡多一体から門人が形成されていまいした。

次に樋口真吉の思想と思潮です。土佐勤王党が、文久元年8月に結成されて数ヶ月後の事です。日本がアメリカと開港時の事。「列強と開国した。朝廷がよしとしない。退けよ、そういう命令を出したのに、幕府はそれを採用しなかった。列強の敵国と通商条約、和親条約を最初に結ぶ。際限なくその条約を許してしまった。これは神の国、日本にとって大変な傷ではないか。」と記しています。この天の下、全て海際全部にいたるまで、この神の国、日本は全てが天皇の持ち物である。天皇に従うべきではないか」と言っています。天皇の君が、難に苦しんでおるならば、勤王の旗を、ひるがえすのが当然ではないのか。おそらく將軍家は、もし国に、危うき事が起きたら、列強に助けを求めらるう。こんな言葉を文久元年すでに、樋口真吉はいつております。

その後、激動の幕末に向かって慶応3年12月、戊辰戦争が勃発します。樋口真吉は門人たちに参戦するように指示しています。板垣率いる迅衝隊の主力となったのは、かつての半平太が率いる土佐勤王党。それからこの樋口真吉の門人たちの部隊です。新しい時代の到来に向かった激動の幕開けとなる時代、樋口真吉の役割は大変大きかったと思います。

樋口真吉を一言でいいますと、胆力、知力、沈着で、しかも抜群の能吏だったと思います。歴史にifは禁句ですが、この彼が山内に仕えだした時は極めて低い身分です。もし彼が、上士であったならば、おそらく福岡藤次（文部卿＝文部大臣）のような人になっていたんではないかなと思います。

時間となりましたので終らせていただきます。ありがとうございました。

## 【ニコニコ箱】

白木（一）会員：佐竹SAAと目が合いました。ばっさりです。

【出席報告】 ・会員総数57名（免除会員3名）

・本日の出席/31名 64.58%

・先週の訂正 MU4 70.83%→79.17%